

柑橘3月の管理

伊豆農業研究センターの生態調査によると、柑橘肥大はやや小玉傾向、果実内容については品種ごとにバラツキがみられます。

3月は周期的に天候が変化し、気温の変動も大きくなりやすい月です。近年、春先の多雨により甘夏の果皮障害やニューサマーの水腐れ症が多発し、収穫量や秀品率に大きな影響を与えています。天候には十分注意し、状況に応じて早期に収穫し貯蔵するなど対応をしてください。

近年、かいよう病とサビダニの被害が見られます。どちらも被害が出てから防除をしても手遅れになる場合が多いため、防除暦に沿った防除を徹底してください。

柑橘生態

表1 果実肥大(平成30年1月31日現在 伊豆農業研究センター調べ)

年度	ヒュウガナツ			川野ナツダイダイ			不知火		
	横径 mm	縦径 mm	果形 指数	横径 mm	縦径 mm	果形 指数	横径 mm	縦径 mm	果形 指数
29	64.1	56.6	113	94.1	74.8	126	81.8	79.7	103
平年	71.0	60.8	117	96.8	74.5	130	83.1	77.2	108
28	70.8	61.7	115	100.8	76.9	131	85.4	79.2	108
27	63	54	117	98.7	78.5	126	87.2	80.4	108

表2 果実品質(平成30年1月31日現在 伊豆農業研究センター調べ)

年度	川野ナツ ダイダイ		ヒュウガ ナツ		不知火		はるみ	
	糖度	酸	糖度	酸	糖度	酸	糖度	酸
29	10.1	2.3	10.3	2.75	13	1.18	11.8	1
平年	10.0	2.14	10.5	2.41	13.8	1.36	12.7	1.01
28	9.6	2.13	10.3	2.39	13.3	1.44	12.4	1.09
27	9.8	2	11.3	2.4	14.3	1.42	12.5	0.78

(1) 施肥管理

春肥は春枝の伸長と緑化、充実した花の確保、幼果の肥大促進を目的としています。表3の基準量を確実に施用してください。また、樹勢の低下している樹等には2回に分けて施用すると効果的です。今年度より中晩柑の省力コースに年1回施肥のらくらくオレンジを導入しました。らくらくオレンジは、コーティングされた肥料が徐々に溶け出すことで施用回数を減らす事が出来ます。ただし、温度や降雨量により溶出量をコントロールできない場合がありますので、理解したうえで使用してください。

①春肥

表3 春肥施肥基準

品 種	早生	青島・普通	甘夏・清見・セミノール・不知火・日向夏・はるみ・はるひ ポンカン・伊予柑・ネーブル	中晩柑省力コース
時 期	3月中旬			
肥 料 名	東部柑橘ペレット855			らくらくオレンジ
反 当 量(袋)	5(5)	6(5)	6(6)	13(13)

※()内の数字は黒ボク土壌の反当量

②除草

みかんの根は一般的に地温が10~12℃以上になると活動を始めると言われています。草が繁茂していると地温がなかなか上昇せず、春肥の吸収が低下します。また草が繁茂したまま春肥を施用するとチッソの40%が草に吸収されるという報告もあります。効果的な施肥を行うために、施肥の前には除草を行ってください。

③葉面散布

葉面散布は土壌への施肥に比べて樹体への吸収量は少ないものの、即効性があるため樹勢回復に効果的です。着果が多かった樹や葉の退色が見られる園地では果実の収穫後、チッソ主体の液肥を10日おきに3回散布しましょう。

(2) 間縮伐

みかん園で最高収量が得られるのは、枝先が20cmくらい交差する程度といわれていますが、この時点では品質の低下が始まっています。密植の弊害は次のような点が挙げられます。間伐実施年度には収量が低下しますが、翌年以降は安定した収量を得ることができます。高品質化と省力化のために計画的に間縮伐を実施しましょう。

- ①枝が立ち上がり着果部位が上がる。
- ②病虫害が発生しやすい。
- ③光が果実や葉に当りづらくなるので着色不良や品質低下を起こす。
- ④作業性が極めて悪くなる。
- ⑤ニューサマーの受粉がうまくいかない。

(3) 剪定

開心自然形を基本とし、光環境を改善し品質向上を目指しましょう。表年が予想される樹は剪定時期を早めにし、切り返し主体で予備枝の確保に努めましょう。逆に裏年が予想される樹は剪定を遅めにし、間引き主体で着花量の確保に努めましょう。また、樹高が高く作業性の悪い園地が見られます。一般的に樹高2.5mが適正な樹高と言われています。まず間伐等により十分に樹冠を拡大させた上で、計画的に低樹高化を図りましょう。また、剪定の際には、かいよう病やそうか病の症状が出ている枝は切除してください。

(4) 苗木の植え付け

植え付けの適期は3月中旬から4月中旬です。幅80~100cm、深さ40~50cmの植え穴を掘り、ハイミン2kg+苦土セルカ2kg+苦土重焼燐1kgを土と良く混和し植え付けを行ってください。最後に支柱を立て固定してください。植え付け後は十分に灌水を行い、根の活着を促進させましょう。また、鹿やウサギなどの被害がある園地では獣害対策用ネットや金網で苗木を囲い被害を防いでください。

(5) 病虫害防除

かいよう病が発生している園地が見られます。かいよう病を防ぐためには発芽前の3月にしっかり防除しておくことが重要です。特に夏秋梢にかいよう病が見られる場合は必ず防除しましょう。また、冬季のマシン油の散布を行っていない園地では3月上旬にマシン油乳剤150倍を散布してください。なお、ボルドーとマシン油の散布間隔は2週間以上あけてください。

表4 3月の防除

時 期	品 種	対象病虫害	薬 剤 名	倍 率	安全使用基準
3月上旬	柑橘全般	ハダニ	マシン油乳剤	150	—
3月中旬	甘夏・伊予柑 ネーブル・はるみ	かいよう病	ICボルドー66D	60	—

※農業安全使用基準を厳守し、出荷前に必ず防除履歴を提出しましょう！！

